



「仕事がない。えらいこっちゃ」の焦りが、日々のエネルギー源と話す川本さん(京都市西京区・洛西ふれあいの里療護園)

## 重度障害 西京の施設の男性

# ベッドで起業奮闘10年

頸椎損傷で肩から下の感覚と機能を失った男性が、京都市西京区の福祉施設内のベッド上で立ち上げた会社が今春、設立10年目を迎える。口にくわえた棒や肩の筋力と補装具でパソコンを操作し、ホームページ(HP)作成代行などを請け負ってきた。「仕事はなかなか増えないが、多難があるから幸せがある」と信じ、意欲を燃やし続けている。

「洛西ふれあいの里療護園」のパソコン教室に通って暮らす川本浩之(48)。24歳の時、趣味のモトクロスレースで転倒し、首を骨折した。ふさぎ込む日々が続いたが、事故から3年後、「何かが変えたい」と自らの意思で家を出て施設に入った。神戸市の社会福祉法人「プロップ・ステーション」

## HP作成代行など「多難だから幸せ」

と、低料金と質の高さを手紙でPRする営業活動を続けた。これまでに約30社の新規HP作成を請け負い、情報の更新も丁寧に手掛ける。4年前から京都府の障害者就労支援パソコン研修の講師も務めており、受講生に「ウサギとカメ」の童話を基に「ウサギの速さはなくてもカメのように山の頂上を目指せる」と継続の大切さを熱く伝えている。川本さんは「重度の障害があっても『できない』とあきらめたくない。発想次第で多くの人の役に立てることを示したい」と話している。(高元昭典)